

はじめに

「水槽で飼われている水族館の魚って自然じゃない！」という人がいました。それが本当なら、この本で書いている釣り魚の生態は参考にならないということになりかねません。それは困るので、検証してみましょう。

もし、魚が心地良い環境にいたなら、エサを良く食べる！ どんどん成長する！ 病気にかからない！ 長生きする！……一つ、忘れてはいけないことがあります。それは、卵を産むことです。エサを食べ成長する最終目的は、子孫繁栄なのです。じゃあ、水族館の魚は卵を産んでいるのでしょうか？ もちろん産んでいます！

最初に産卵が確認されたのは1967年、鳴門自然水族館で飼われていたマダイが卵を産んだのです。今ではマグロをはじめ、魚の完全養殖は飼育水槽（網イケス）で親魚を飼育して卵を産ませています。こうした自然採卵法が主流になったきっかけは飼育のプロ集団がいる水族館なのです。

そうだ！ もう一つ大切なことがあります。それは、水族館の魚は天然ものだということです。ごく一部の魚を除けば、網で採られたり、釣られたりした魚なのです。いくら水族館の魚がエサに慣れていると言っても、「三つ子の魂百まで！」です。水族館の魚は自然に近い環境で、野生の本能を忘れずに生きているのです。

さて、そろそろ本書の“はじめに”をスタート

させましょう。平成24年10月に神戸市立須磨海浜水族園の特別展で「科学から見たあなたの釣り～魚のキモチ教えます～」が開催されました。水族館スタッフが釣り魚の行動、生態、生理を科学の目線から追究した展示を行ったのです。アングラには水面下の釣り魚は見えません。水面下の釣り魚の行動は想像の世界です。ただし、釣り魚を、毎日、眺めているのが水族館の飼育員です。しかも、彼らが釣り好きだったら、どんな視点で釣り魚を眺めているんでしょう。一般のアングラが知らない釣り魚の秘密を知っていると思いませんか？ 豊富な知識、経験、観察眼を持つ釣り好き水族館の飼育員はある意味、最強のアングラだと思えます。

イベント開催中の平成25年2月には特別展のイベントの一つとして、「お魚博士 VS フィッシングナビゲーター釣り対談 釣りの常識、ウソ、ホント？」も開催されました。釣り番組のフィッシングナビゲーターである伊丹章氏、須磨・平磯海づり公園の高田玲欧氏、須磨水族園の馬場、東口、そして海野が登壇し、観客を交えた対談が行われたのです。実は、このイベントがきっかけで本書が誕生しました。イベントの後の“アングラ飼育員”の馬場と“釣りバカ、時々、研究者”の海野との雑談を披露して“はじめに”とさせていただきます。

本書の内容の一部あるいは全部を無断で電子化を含む複写複製（コピー）及び他書への転載は、法律で認められた場合を除いて著作権者及び出版社の権利の侵害となります。成山堂書店は著作権者から上記に係る権利の管理について委託を受けていますので、その場合はあらかじめ成山堂書店（03-3357-5861）に許諾を求めてください。なお、代行業者等の第三者による電子データ化及び電子書籍化は、いかなる場合も認められません。





海野 今日はアングラーさんもたくさん来られましたね。

馬場 いやあ、やっぱり、皆さまも新鮮な情報を釣りたいんですね。科学的な。

海野 水族館で仕掛けをテストしながら、釣りしたいですね。

馬場 いや、それが、あるんですよ！ 釣りしたことが！

海野 えっ、水族館で……？

馬場 水槽からある種の魚だけを取りあげたい時に釣りしますよ。水槽の水を抜いたりすると後が大変でしょう。それに、タモ網で追いかけてまわすより、魚にストレスあたえないんですね。

海野 そうなんですか。じゃあ、入れ食いだっただけでしょう？

馬場 いや、それが違うんです。釣れませんよ。スレるんです。水槽のブリを1尾釣ったら、ほかの個体がスレてしまって、さっぱり釣れなくなりました。

海野 毎日、エサもらっている環境なのに、それはあり得ないでしょ。仲間が釣られていくのを見て「あ、これは仲間がやられているな」と感じているんですかね？

馬場 そうだと思います。その生態によりますが、たとえばある程度の密度でいる魚、群れで動いている魚はやはり仲間が釣り上げられていくのを見

ているのではないかなと思います。

海野 スレが伝搬するんですね。釣り竿の下で起こっているとすれば、ゾッとしますよね。

馬場 いや、きっと起こっていますよ。スレると警戒レベルが上がってしまって、エサを注意深く見えていますね。普通のエサはバクバク食べるのに、針の付いたエサは、目の前まで来てフって見切りますから。

海野 すごい話ですね！ 糸が見えているんですか？ それとも針？ もしくは落下スピードとか動きですか？ 針付きエサと針と同重量のオモリを仕込んだエサの食いを比較したいですね！

馬場 落下スピードを同じにして、針の視認の影響を調べる実験ですね。

海野 そのとおりです。

馬場 じゃあ、糸付きの釣り針をエサに装着したものと、針無しで、釣り糸とエサを結んだものも比較しないとイケませんね。

海野 いやー、さすがですね。針の影響を調べるといことですね。さすが、アングラー飼育員！

馬場 実は、私みたいな釣り好きのアングラー飼育員、全国の水族館には結構いるんですよ。

海野 え、それはすごい！ 皆さん、馬場さんのようなネタをお持ちなんですよ。

馬場 もちろん、そうだと思います。釣り具メーカーの釣り具開発に関わっている人もいますよ！

海野 やっぱ！ メーカーも黙ってないですよ。

馬場 時には釣り雑誌なんかにも執筆していると思います。

海野 説得力ありますからね。いっそ、アングラー飼育員たちが集まって情報発信しませんか。水族館発の釣り魚の生態、皆さん、知りたいと思えますよ。(続く)

平成 27 年 4 月 25 日

海野徹也・馬場宏治

目次

- 01** 魚が見える！魚も見える！
溪流魚の視野とエササイズ (古賀 崇 おたる水族館) 8
- 02** ピラニア釣りから学ぶ
音は捕食スイッチを ON にする！ (安藤孝聡 栃木県なかがわ水遊園) 12
- 03** 水族館の周辺生物情報で釣りをランクアップ
干潟の生物環境から考える東京湾のスズキ (佐藤 薫 東京都恩賜上野動物園) 16
- column** オウサマペンギンの羽でフライ (梶 明広 島根県立しまね海洋館アクアス) 20
- column** 陸を好む魚、トビハゼ (濱崎佐和子 広島大学) 21
- 04** 深海魚、キンメダイの秘密！
輝く眼、垂直移動、向こうアワセ (重 秀和 横浜・八景島シーパラダイス) 22
- 05** 長竿&本流で狙う溪流魚
大物はニオイに敏感で居食いが基本 (中井 武 京急油壺マリンパーク) (2021年9月30日閉館) 26
- column** ロマンを運んだ「戻りヤマメ」 (海野徹也 広島大学) 30
- column** 採集は飼育員の財産だ (土田洋之 いおワールドかごしま水族館) 31
- 06** シーバスの素顔
テクニカルならマル、男の釣りならヒラ (浅川 弘 下田海中水族館) 32
- 07** 尺メバルへの流儀
速巻き釣法とシャローエリアで周年ターゲット (藤原克則 下田海中水族館) 36
- column** 減圧は大敵 (宇井晋介 串本海中公園水族館) 40
- column** メバルたちの帰巢性 (津行篤士・海野徹也 広島大学) 41
- 08** オトリアユも水族館の魚も元気が一番
輸送のノウハウをオトリ缶に応用！ (松田 乾 名古屋港水族館) 42
- 09** 知って得する“まち海”の環境
釣りエサからポイント選びまで (中嶋清徳 名古屋港水族館) 46
- 010** タコにラッキョウを検証する
知的なタコは好奇心も豊か (森 昌範 名古屋港水族館) 50
- column** タッチで味見するタコ (宮野哲史・海野徹也 広島大学) 54
- column** クロマグロと水族館 (吉田 剛 串本海中公園水族館) 55

*11	水族館発！新感覚エギング アワセからスレ対策まで (辻 晴仁 鳥羽水族館) ……56
*12	メジナ釣りの魅力 エサへのアプローチと感覚器の世界 (神村健一郎 志摩マリンランド) (2021年3月31日閉館) ……60
*13	アオリイカ飼育日誌 飼育してわかった若イカの不思議 (井村洋之 新潟市水族館マリニピア日本海) ……64
*14	釣りから学んだ飼育術、飼育から学んだ釣り 憧れのライギョ、ザリガニを食べるコイ (田村広野 新潟市水族館マリニピア日本海) ……68
*15	飼育員になって釣りの楽しさ倍増！ みんなが知らない釣り魚の素顔 (笹井清二 越前松島水族館) ……72
*16	女性アングラからみた釣りのキモ 食べ方からポイントまで、勝算は観察にあり？ (佐藤亜紀 京都水族館) ……76
*17	飼育からわかったタチウオ 暗いのが嫌い、共食い大好き！おもしろ生態学 (北谷佳万 海遊館) ……80
column	コイのルーツ (東口信行 神戸市立須磨海浜水族園) (現所属 atoa) ……84
column	タチウオ採集に秘密のエサ (御薬袋 聡 宮島水族館) ……85
*18	複眼スタッフからみた釣り魚 メバルのスレ、時合い、ベイト回遊を解く (馬場宏治 神戸市立須磨海浜水族園) ……86
column	「顔」で仲間を識別する魚がいた！ (幸田正典 大阪市立大学) ……90
*19	ニオイと味の世界 究極のエサはこれだ！ (東口信行 神戸市立須磨海浜水族園) (現所属 atoa) ……92
*20	アカメに魅せられた飼育員 フィールドとガラス越しの生態 (寺園裕一郎 神戸市立須磨海浜水族園) (現所属 四国水族館) ……96
*21	これがブラックバス 嗜好性と学習能力が高い (野路晃秀 神戸市立須磨海浜水族園) (現所属 四国水族館) ……100
*22	釣り上手、釣られ上手な魚の素顔 好奇心旺盛なメジナ、武士道を貫くヒラスズキ (宇井晋介 串本海中公園水族館) ……104
*23	水族館で知った魚の意外性 針を吐きだす？ 食欲の秋？ コロダイ・ルアー？ (吉田 剛 串本海中公園水族館) ……108

*24	フライと色の世界 水中環境と視覚で色は変化する (梶 明広 島根県立しまね海洋館アクアス) ……112
*25	タチウオ！食わないときはヨコウオ！ 幽霊魚、ジグキラーなワケ (御薬袋 聡 宮島水族館) ……116
*26	アオリイカの“ハテナ”に挑む ベイトと水温から摂餌活性を検証 (鈴木泰也 マリンワールド・海の中道) ……120
column	イカの視覚 (宮崎多恵子 三重大学) ……124
*27	オキゴンベとワームバトル 学んだのはエサのマッチングと警戒心の解除 (澤田達雄 大分マリンパレス水族館「うみたまご」) ……126
*28	食わない魚にエサを食わせる 捕食音は摂餌をオン、警戒をオフに？ (土田洋之 いおワールドかごしま水族館) ……130
*29	美ら海の釣り魚生態 モンスターでイメージトレーニング (山城 篤 沖縄美ら海水族館) ……134
column	魚が仲間に危険を知らせる“警報物質” (吉田将之 広島大学) ……138
	水族館紹介 ……139
	著者紹介 ……143
	おわりに 須磨海浜水遊園スタッフに聞く釣り魚の生態 ……147
	参考図書 ……151
	釣り用語索引 ……153

#01

魚が見える！魚も見える！ 溪流魚の視野と エササイズ

担当生物：魚全般、バンドウイルカ、トド、アザラシ類、ペンギンなど
釣歴：33年
釣りジャンル：フライフィッシング
ホームグラウンド：北海道全域の河川
釣りの夢：現在の夢は事故（出会いがしら）ではなくコンスタントに50センチ以上のニジマス釣りをすること



古賀 崇
おたる水族館

水族館で身についた “魚視能力”

北海道に移り住んでもう25年。東京で生まれ、湘南の片田舎で育った幼少時代に父と行ったシログチ釣りが釣りとの出会いでした。近所の川で60センチオーバーの野ゴイを狙い、日

が暮れても帰宅せずに母親に怒られ、休日には路線バスで箱根までバス釣りにも行ってました。ヘラブナ釣り、港でのサビキ釣り、船釣り……。トローリング以外のほとんどの釣りを幼少時代に経験した気がします。大学進学で北海道に移り住んではふたたびルアーロッドや

フライロッドを持って海や山へ通うことが多くなりました。幸いにも今も北海道に住んでいて、家から車で10分のところに、イワナやヤマメ、野生化したニジマスなどが釣れる川があります。

水族館のある小樽周辺の川は流れが短いわりに高低差があります。だから河口近くまで溪流のような環境で、想像できないかもしれませんが海を背に溪流魚を釣ることもできます。といっても、いつもはヒグマが普通にいるような山の中で釣りをしています。半日歩き回るので、とても足腰が鍛えられる趣味です。周囲の自然がとても素晴らしく、カワセミやヤマセミなどの鳥が私の獲物を横取りすることもあります。テンやエゾシカと目が合ったり、真新しいヒグマの忘れ物（フン）に出会って、ハラハラすることもあります。

さて、私が紹介する釣り魚は溪流魚で、釣りのジャンルはフライフィッシング（西洋毛針釣り）です。私は10年以上、魚の飼育を担当しました。その間、溪流魚だけでなく、海の魚とも毎日触れ合っていました。ただ、癒されたのは釣りのターゲット同様、溪流魚です。毎日、エサやりや掃除をしていると溪流魚たちの泳ぎ方のクセ、眼球の動き、隠れる場所などが脳裏に焼き付いてしまいました。すると、少し波立った水面からでもパッと見ただけで水槽内の魚の数を誤差1、2尾くらいで数えるこ

川になじむ溪流魚とその拡大写真

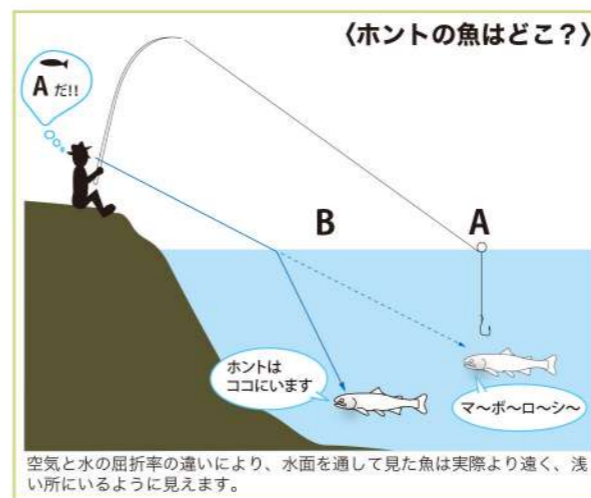


図1 屈折と釣り人 vs. 魚の関係

とができるようになったのです。もちろん、だれよりも早く手網で捕まえることもできます。

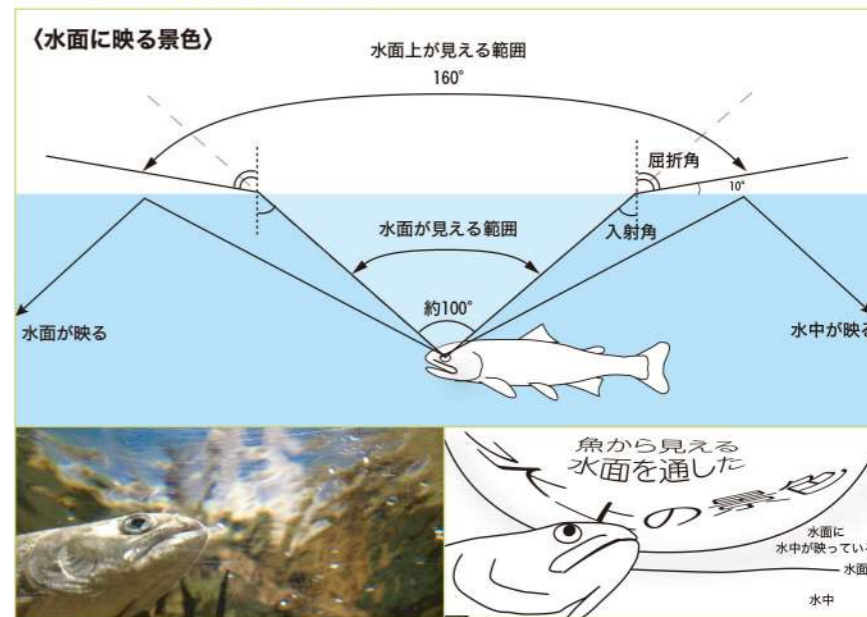
いつの間にか身につけてしまった能力は、フィールドで威力を発揮します。釣り場に到着すると、河畔林の樹種や川の中の岩の状態、水量や水の色をチェックし、魚がいるポイント

を予測します。ここまでは普通の釣り人と同じですが、そこから違うのです。水底の色によく似た魚の背中の色は、上からの外敵に見つかりづらいのですが、私には流れの中に魚が見えてしまいます（写真①）。明らかに流れとは違う運動をする尾ビレ、流れの中にじっとしている様子、辺りを見回している目の動き、そう、あの水族館の水

槽と同じです。しかも川では、上流から何が流れてくると、それに反応して右へ左へ移動しているのがわかります。悪く言えば職業病ですが、よく言えば魚視能力というのでしょうか。

10メートル以内は視野

図2 溪流魚の水面上方に対する視野



では、次に視点を変えてみましょう。魚たちに私たち釣り人はどのくらい見えるのでしょうか。一般的に「見える魚は釣れない」と言われていますが、私もそう思います。理由は、人から魚が見えるということは、魚からも釣り人が見えているからです。特に、水中と陸上の境界にある水面で光が屈折します。釣り人には岩陰に潜む魚が見えないのに、魚からは釣り人が見えることもあるのです。また、屈折の関係で、釣り人が想定している場所より、じつは魚は近くにいるということもあります（図1）。

魚の視野（単眼視野）は広く、自分の背後をのぞけば、ほぼ全域をカバーします。もちろん頭上も視野内にとらえることができます。私たちが前を向いて歩いているとき、頭上から何かが



2

ワカサギと混泳するイトウ

落ちてきても気づきません。でも、魚は違うのです。ヤマメやイワナは上方に100°弱の円すい状の視野(両眼視野)があると言われてます。さらに、その視野は水面での屈折で、10°くらいは拡大されます(図2)。ということは、私たちが思っているよりも、魚からは陸上が広範囲に見えていると思ってよいでしょう。

特に、浅くて水面がフラットなポイントに潜む魚に近づくと気づかれて警戒されてしまいます。たとえば、魚が波立ちのない水面下50センチの所にいた場合、真上に直径約120センチの円状に陸上の景色が見えていることになりま。さらに、光が水面で屈折することで視野は広がります。身長180センチの釣り人が魚の視野から外れるには10メートルは離れないといけない計算になります。実

際の釣りでは、10メートル以上遠から魚を見つけるのは至難の業です。魚の位置を予測し、気づかれる前に真後ろに回り込み、なるべく距離をあけてフライをキャストするのが基本的なアプローチということが、魚の視野からも説明できるのです。

さて、ここまで書くと釣り人の皆さまは魚に対して慎重になってしまいますね。ところが、そうでもないケースがあります。私は飼育経験や川での観察から、魚に個体差があることに気がつきました。視野全体に入ってくるエサに気がつかっている個体と、正面ばかりを注視している個体がいるのです。深いポイントや水温が低いときは、水面を流れてくるエサに見向きもしない魚も結構います。テレビに集中していると、辺りで何が起きているかわからないような感じです。そんな魚には、こんなに近づいていいのか?! というくらい接近戦を挑むのです。ニンフという水生昆虫の幼虫を模した毛針を使い、ギリギリまで魚に近づいて、魚よりも数メートル上流にフライを投入します。そして魚が注視している正面へと毛針を沈めてやると一撃必殺! というわけです。

大型は、 楽しく食べる!

エサの大きさについて考えてみましょう。魚たちは生きるためにエラ、心臓、ヒレ、筋肉を

動かす必要があります。それらを動かすためにはエサを食べてエネルギーを取らなければいけません。しかし、エサを探すためには体を動さなければならないので、魚たちは食べることで得るエネルギーと、エサを探すことで失うエネルギーの関係を本能的に知っています。一生懸命泳ぎ回ったのに小さなエサしか食べられなかったとしたら、消費エネルギーの方が摂取エネルギーより大きくなり、そんなことを続けたらガス欠です。できるだけ大きなエサを、あまり泳がずに食べる方が効率がいいのです。つまり、“楽しく食べる”ことができるエサ環境が理想というわけです。

水族館の水槽でも“楽しく食べる”魚の姿を目の当たりにしています。1メートル近いイトウと3センチほどのワカサギ5,000尾を一緒に泳がせています(写真2)。ところが、まったくと言っていいほどワカサギは食べられません。イトウは狭い水槽の中でさえも、効率よく大量のワカサギがゲットできないのを知っているのでしょう。それに、黙っていれば飼育員さんが20センチくらいのイカナゴをたっぷり与えてくれますから。ちなみに、30センチくらいの小型のイトウなら好んでワカサギを食べました。小型のイトウなら小さなワカサギでのエネルギー収支が合うのでしょうね。よほどの空腹なときでなければ、“楽しく食べる”という



3

ヤマメはピチピチ(左)、イワナはクネクネ(右)

のが基本スタイルだと思います。

大きな魚を釣りたければ大きなエサ(フライ)を使う! というのが私の考えです。たとえば、30センチ以上のイワナやヤマメを狙うときは、#4~#6くらいのフライ(長さは3~4センチ)を使います。ちょうど小型のセミの大きさです。時期によっては小さなフライも使いますが、おおむねこのサイズのフライでシーズンを楽しんでいきます。さて、初めに魚の視野の話を開示させていただきました。魚によっては前方だけのエサばかり注視しているものがあります。おそらく大きなエサを狙っていると思います。こうした横着な魚ほど結構大きいことが多いと思います。“楽しく食べる”をくり返していると、エネルギーの効率がよくなって、あまったエネルギーは成長に投資できるのです。成長して大きくなればよいエサ場を陣取れ、さらにエネルギー効率のアップと高成長が待っています。渓流魚の視覚や食性というのは案外関係あると思っています。

魚は答えてくれる

水族館の展示水槽で魚を観察

するときには、同じサケ科の魚でも体の形や口の形が違うことにも注目してみてください。これらは生活スタイルやエサの食べ方に関連があるのです。たとえば、ヤマメとイワナの体形。胴体の断面はヤマメがだ円形(縦に平べったい)に近いのです。つまり、体幅に対して体高が高いのです。ところが、イワナの胴体の断面は円形に近い形をしています。この体形の違いは生息環境の違いに関連していると思います。ヤマメは流れの速い流域を好んで、しかも中層で定位しながらエサを食べることが多いので、流れの中で泳ぐのに適した体をしています。イワナの仲間はおもに倒木や大きな石の陰など、流れのよどみや、極端に水量の少ない細流などにも生息しています。このような場所は夏場に雨が降らないと水がなくなることもあります。そんなときはニョロニョロとヘビのように体をくねらせながら、水を求めて石の間を移動します。ちなみにヤマメとイワナを釣り上げると、ヤマメはピチピチと跳ねますが、イワナはクネクネ、ニョロニョロと逃げようとします(写真3)。

次に口先の形。ヤマメは体と

同じように、頭から口先にかけてスマートで、流れの中で泳ぎながらエサを取りやすくなっています。対して、イワナの仲間の上アゴの先は丸みを帯び、全体的に下向きの口になっています。この口先の形は、水底にへばり付いたり、石のすき間にいる昆虫を食べるのに便利で、水底近くでの生活に最適です。くわしいことはよくわかりませんが、ヤマメとイワナの口の歯の並びも違うので、時間があれば生活環境との関係を観察してみようと思います。

最後に皆さまにメッセージです。水族館に来られたら、これまでと違った観点で魚たちを見てください。体に付いているヒレの使い方、眼球の動きなど、じっくり見ているとおもしろいですよ。何となく魚を見るだけでなく、「これは何?」とか「何でだろう?」などと考えながら観察してみてください。そんな疑問に対して魚たちは答えを披露してくれると思います。どうしてもわからないときには職員に質問してみましょう。きっと納得の答えが返ってくるはずですよ。もしかしたら、あなたの疑問が世紀の新発見につながるかもしれませんよ。

ピラニア釣りから学ぶ 音は捕食スイッチを ONにする！



釣歴：33年
釣りジャンル：ルアー全般、
溪流から海のジギング、キャ
スティングまで
ホームグラウンド：季節に応
じて、管釣りから海でのジギ
ングまで一年中どこへでも…
釣りの夢：サケ・マス類の世界
制覇と世界中の水辺で竿を
振ること

安藤 孝聡
栃木県なかがわ水遊園

じつは臆病ものピラニア

「アマゾン」、「魚」とくれば、どんな魚を想像されますか？ それに「怖い」とくれば、おそらく皆さん「ピラニア」と答えるでしょう。ピラニアの仲間には南米のアマゾン川、サンフランシスコ川、オリノコ川などに多くいて、正確にはカラシン目セラサルムス科セラサルムス亜科の魚の総称がピラニアです（写真①）。ピラニアの仲間のうち、30～40種は肉食性が強く、大きさは体長20～50センチくらいで、種類によってバラツキがあります。気性が荒く、単

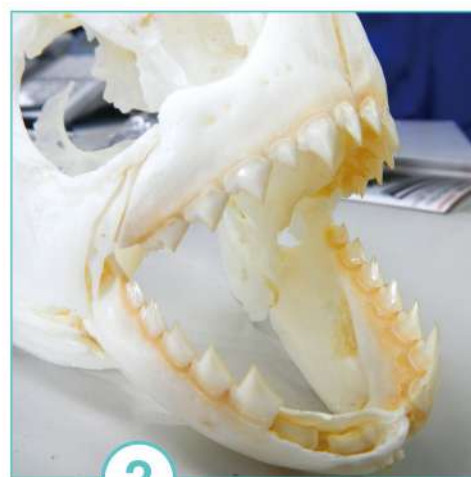
独生活を好むのも特徴です。肉食性ということもあって、鋭くとがった歯を持っています。しかも、その歯は定期的にぬけ替わるため、いつも鋭い歯先がキープできるのです（写真②）。ピラニアといえば怖い魚というイメージがあるでしょう。それもそのはずで、テレビのネイチャー番組がアマゾン川を紹介するときには必ずといっていい程よく登場するのがピラニアで、1匹の獲物を食い尽くすシーンはおなじみです。ピラニアがいる川に入るのは自殺行為だ！ そんな恐怖と先入観が私たちの心に深く刻み込まれていると思

います。さて、ネイチャー番組で登場していたピラニアは、ほとんどがピラニア・ナッテリーという種です。では、このピラニアは、本当に怖い魚なのでしょうか？ なかがわ水遊園の名物でもあるピラニアの本当の素顔とピラニア釣行のお話をしたいと思います。

なかがわ水遊園の最大の水槽はアマゾン大水槽です。そこでは3センチくらいの小魚から3メートルもあるピラルクーまで、約100種類、1万尾の魚を飼育しています。「ピラニアがいる所ではほかの魚は生きていけない！」と思われるかもしれませんが、ピラニアもほかの魚たちと一緒に泳いでいます。私たちが掃除のために毎日水槽に入ってピラニアと一緒に泳いでいます。私たちと一緒に泳いでいるピラニアは、あのアマゾン代表するピラニア・ナッテリーなのですから、結構ショッキングなことではないでしょうか！

しかし、私たち飼育員の目線でピラニアを観察してみると、じつは非常に臆病な魚であるこ

アマゾンでおなじみの
ピラニア・ナッテリー



2 肉食性の鋭くとがった歯

とがわかります。たしかにピラニアはいつも水槽内を我が物顔で泳いでいます。しかし、飼育員が水中に入るやいなや物陰に隠れようと、あわてふためいて逃げまわるのです。むしろ、ほかの魚たちの方がよっぽど堂々としています。「ピラニアって臆病なんだ！」これが、飼育員全員一致の認識なのです。

捕食の「スイッチ」が ONになる

そんな臆病なピラニアをルアー（疑似餌）で釣るにはどうすればよいかを考えてみましょう。ルアーで魚を釣るには、その魚の捕食スイッチをONにしてやればいいのです。では、スイッチはどうすればONになるのでしょうか？ 毎日、水槽内のピラニアを観察していましたが、普段、彼らはエサとなるような小魚たちが目の前を泳いでいても知らん顔。しかし、飼育

員が投げ入れたエサにはしっかり反応します。結局、水槽のピラニアは、定期的にエサをもらえることを学習してしまったのでしょうか。わざわざ労力を使って魚を襲う必要もないのです。

ところがです。飼い慣らされた彼らでもある瞬間だけ周囲の魚を襲うことがありました。正に「スイッチON」の瞬間があったのです。それは水槽に新しい魚を放したときです。新しい魚といっても、これまでいなかった種を放したわけではありません。ただ単に、アマゾン大水槽が初めてだという魚を静かに放しただけです。種という観点ではピラニアにとっても見なれた魚のはずです。しかし、彼らは狂ったように新しい魚に襲いかかるのです。

なぜでしょうか？ 理由として考えられるのは、水槽の環境に慣れていない魚の動きが不自然だったことです。落ち着きがなく、右往左往して逃げ回る不自然な動きと、そこから生じる刺激的な遊泳音こそがピラニアの捕食スイッチだったのではないのでしょうか。飼い慣らされたピラニアでさえも反応するので、野生のピラニアがこの刺激的な遊泳音を聴けば捕食スイッチがONになるはずで

もう一つ確かめたいことがありました。それは水面の音です。アマゾンで釣りをしている現地の人々が、棒きれで水面をバシャバシャとたたいているシーンをテレビで見たことがあります。

日本でこんなことをしたら魚が逃げってしまう気がしますが、どうやらアマゾンでは魚が寄ってくるようなのです。そこで、実験です。水槽の水面をデコピン連射してみました。すると日本産淡水魚の水槽では、みんな逃げてしまいました。ブラックバスの水槽も同じです。日本の淡水魚にとって水面の大きな音は恐怖を感じるだけで、逆効果であることがわかったのです。

次に、ピラニアがいるアマゾン大水槽で同じ実験をしてみました。すると、まったく違いました。ピラニアがウヨウヨと寄ってきたのです。それだけではありません。セベラムやジュルパリ、草食性が強いメチヌまでもがピラニアの後からお出ましです。

なぜ、こんなに日本の淡水魚たちと反応が違うのでしょうか？ バシャバシャと水面をたたいた音は何を意味するのでしょうか？ 答えは、おそらくナブラではないでしょうか。日本の川でもナブラは起こります。ところが、日本の魚は小さくて生息密度も低いから、バシャバシャと激しい音のナブラが起きることはないのです。だから日本の淡水魚は、慣れない大きなナブラ音に驚いて逃げってしまうのでしょうか。一方で、魚が大きく、生息密度が異常に高いアマゾンでは、激しい音が出るナブラが頻りに起こるのでしょう。そして、このナブラこそが、エサにありつける絶好のチャンス



3

アマゾン川上流のパレンシア湖での釣り

の証しです。それが刺激になって反応するのではないのでしょうか。私的な仮説の結論としては「ナブラ音で寄せて、遊泳音で食わせる！」がアマゾンでピラニアを釣るための条件です。

アマゾン大水槽からアマゾン川

では、私の仮説は正しいのでしょうか。アマゾン大水槽からアマゾン川へと舞台を移して、ようやく実践です。アマゾンでピラニアを釣ってみましょう。その前に、まずお詫びしなければ……。ここまで主役として登場してきた日本の皆さまの知るピラニア、正確にはピラニア・ナッテリーはアマゾンでは釣れませんでした。なぜか？ いない所に行ってしまったからです（ごめんなさい）！ しかし、別のピラニアでしっかり検証しましたので、ご容赦いただきたいです。

向かった先はペルーのアマゾンでした。アマゾンといえばブラジルを想像されると思いますが、諸々の事情によりペルーのアマゾン。それもかなり上流の……。クスコから東へ200キロほど進んだ所にあるプエルト

マルドナドから、さらに東へボートに揺られること約5時間。ボリビア国境に近いパレンシア湖です（写真③）。

やっと野生のピラニアに対して、仮説を検証する瞬間です。まず、手に取ったのはラトル入りの大きなペンシルベイト。なるべく大きな着水音と遊泳音を出すためのチョイスでした。結果……。このペンシルでは釣れませんでした……。しかし、読みは的中でした。どうなのでしょう？ ペンシルのドッグウォークに対して、すさまじい数のバイトが起こったのです。ナブラの開始を告げる巨大な着水（ナブラ）音と不自然な遊泳（ラトル+飛沫）音で、しっかりと魚たちの捕食スイッチを入れることに成功したのです。ただ、ルアーとフックが大きすぎたのでしょうか……。きっと……。

「腕は未熟だけど、それが原因ではないはず！」と信じて、ルアーを小型のポッパーに交換してみました。対ブラックバスにおける私の一番のお気に入りルアーで、使い方もバッチリです。しかし、この小型ポッパーは最初のペンシルに比べれば、ボディサイズは半分以下で遊泳音も期待できません。しかもラ

トルなしのポップ音だけなのでアピール不足と感じていました。しかしです。竿を持つと“予想と期待”が違うのは釣り人の性、おまけにペンシルでスイッチを入れた直後での投入です。当然それなりの反応は得られると信じて投げました！ が、沈黙……。まったく反応なし。そこには魚がいない！ と言い切れるほどの沈黙ぶりでした。

幸か不幸か、仮説は実証されつつありました。ふたたび大きなペンシルを投げると、またすさまじい数のバイトが起こったのです。どうやらアマゾンでは小さな音では相手にされないのです。ターゲットが小型の魚でもです。バイトしてきた魚が小さかったと信じています……。今でも……。

そこで、トップでの釣りをあきらめ、遊泳音といえは強力な振動を発するバイブレーション！ ということ、バイブレーションを投入しました。が、一瞬でボディに穴が開けられたあげく、フックも破壊されてしまいました……。やむを得ず、奇跡的なフッキングを信じて、ペンシルを投げ続けましたが、結局、魚が掛かることなく、いつしかスイッチはOFFになってしまいました。

戦略を変えてみました。私が大きなペンシルでスイッチを入れ、同行者が小型のスプーンで魚をフッキングさせる作戦です。スプーンは小さな着水音しか出ませんが、シルエットのわりに



4

スプーン（右）にヒットしたブラックピラニア

大きな遊泳音が出て、しかも、金属なので破壊される心配は無用です。よい結果につながることが期待されました。結果は予想通り！ ブラックピラニアのフッキングに成功！ “予想と期待”が一致した瞬間でした。やはり「ナブラ音で寄せて、遊泳音で食わせる」です。が、この1尾でこの日は時間切れとなってしまいました……。 (写真④)。

やはりナブラ音がカギ

翌日、現地の子どもたちが釣りをしていたので仲間に入れてもらいました。現地の子どもたちは、立派な釣り竿を持っているわけでもなく、棒きれに糸と針を付けただけの超簡単なタックル。船頭は糸だけの手釣り、エサは魚の切り身。私にとっては、現地の釣りを観察するチャンスだったので、しばらく見学です。すると、やはり棒きれで水面をバシャバシャとたたくのです。するとどうでしょう……。入れ食いです。ピラニアだけでなく、いろいろな種類のカラシンがあればあれよと。

ひとしきり見学した後、私も

釣りを始めました。当然、エサは使わない。ルアー勝負です。子どもたちのおかげでスイッチを入れる必要がなかった

ため、小型のスプーンで挑戦。結果、入れ食い！ 現地の子どもたちや船頭さんには申し訳ないけど、彼らよりよっぽどたくさんゲットしました。正真正銘の一投一匹。まあ、スイッチを入れ続けてくれた子どもたちの協力のお陰なのですが、昨日の貧果はナイショで、これが当然のように振る舞う私でした。

結局、ゲットしたピラニアの仲間は、ブラックピラニア、イエローピラニア、いまだ和名のないピラニア（写真⑤）の3種類、それに水槽では見たこともないほど美しいビッグアイカラシンやエロンガータハチェットなどなど。

皆さまもアマゾンに行く機会をつくって、ぜひ「ナブラ音で寄せて、遊泳音で食わせる」を実践してみてください。日本のバス釣りよりも、ダイレクトな



5

和名がないピラニア

反応が得られること請け合いです。くれぐれも、“予想と期待は違う”なんてことはマネしないでください。

ちなみに、ピラニアは怖くないような結論になっていますが、鋭くとがった歯は正に凶器なので、取り扱いには十分に気をつけてくださいね。もう一点！ ここだけの話、釣果全体としては結局ルアーよりもエサが一番釣れました……。m (_) m。